



## まさかのときのための備え

校長 今野 敏晴

「濁流にまさかとまたかが入り交じる（大塚 秀征さん）」新聞を読んでいると時事川柳が目にとまりました。梅雨や台風の時期に大量の雨を降らせる豪雨災害が相次いでいます。何十年かに1回のはずの特別警報が毎年のように出され、深刻な被害が出ているのを報道で見る機会が増えています。気象庁によると「猛烈な雨」（1時間当たり80ミリ以上）を全国で観測した回数は、40年前に比べて、年平均で1.7倍に増加しているそうです。温暖化が進むと、雨を降らせるメカニズムは同じでも雨量はどんどん増えます。これまでは人生に1回あるかないかという大水害が人生に2、3回起こる可能性があると言われるようになりました。今年度は、さらに新型コロナウイルス感染症防止対策を同時に考えなければならず、豪雨、地震、感染症等の複合災害が危惧されています。

本校では、土砂災害や大地震から地域住民の命を守るため、地域防災拠点として避難所を開設しています。今年度、戸塚区役所総務課と協議し、豪雨や大地震による災害が発生した際の避難場所での感染リスクを軽減するため、体育館だけでなく、図書室・家庭科室・図工室を開設することといたしました。もちろん、大地震の際、避難者が多ければ、普通教室も避難場所として開設することになりますが、学校は、子どもたちの教育活動の場であるため、体育館や特別教室から順に開設させていただきますのでご承知置きください。

子どもの命を守ることは、学校教育の最優先事項です。自然災害に限らず、安心して学べる環境を保つために、事件、事故、犯罪や感染症対策に対する万全の備えが求められます。今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、避難訓練等の取組が制限されていますが、3密にならないよう命を守るための教育活動を工夫しながら実施しています。7月には、密にならないようクラスごとに火災を想定した避難訓練を実施し、避難の仕方と避難経路を確認しました。また、水泳学習は行えませんでした。水難事故に備え、学級指導を行いました。8月26日には、全校で大規模地震を想定した避難の仕方を学んだ後、保護者による児童引き取り訓練を実施する予定です。暑い中での訓練となりますがご理解とご協力をお願いいたします。

子どもたちの安全対策は、学校だけでできるものではありません。例えば、交通安全や防犯に関しては、毎日、学援隊の方に見守られながら登下校を行っています。また、今年度はスクールゾーン対策協議会のメンバーが集まった協議はできませんでしたが、PTA 校外委員の方が、PTA 活動がしばらく中にも関わらず、学区の危険箇所や補修が必要な場所をまとめていただき、スクールゾーン対策協議会作成資料として区役所に提出することができました。さらに、保護者や地域の方々には、地域で取り組む「防犯プラン」として「子ども110番の家」の支援や「わんわんパトロール」と名付けて、犬の散歩やジョギング、買い物などをしながらの「ながら見守り活動」にご協力いただき、登下校の子ども達に「地域の温かい目」を注いでくださっています。ご支援、誠にありがとうございます。

大切なのは、いつ起こるとも知れない災害の備えや日々の見守りにおいて、計画や実施体制をつくって良しとせず、学校を核として行政や地域、保護者が手を携え、環境の変化や最新の知見に基づいて見直していくことであると考えています。大切な人に悲しい思いをさせないために、まさかの時のための備えや意識を高めていきたいものです。